

コンピュータのチューンだけで
瞬発力が全域大幅アップ!!

RESULT MAGIC ECU for GDA/GDB IMPREZA

「ハッキリ体感できるコンピュータチューン」で定評のある
オリエントワークスのチューンドECU「リザルトマジック」に
早くも現行GDA(NB)/GDB(STI)型インプレッサ用が
ラインアップされた。ノーマルとの違いをチェックする

☎オリエントワークス ☎0729-92-5667
<http://www.sow-vino.co.jp> text=田中哲也
photo=木村博道



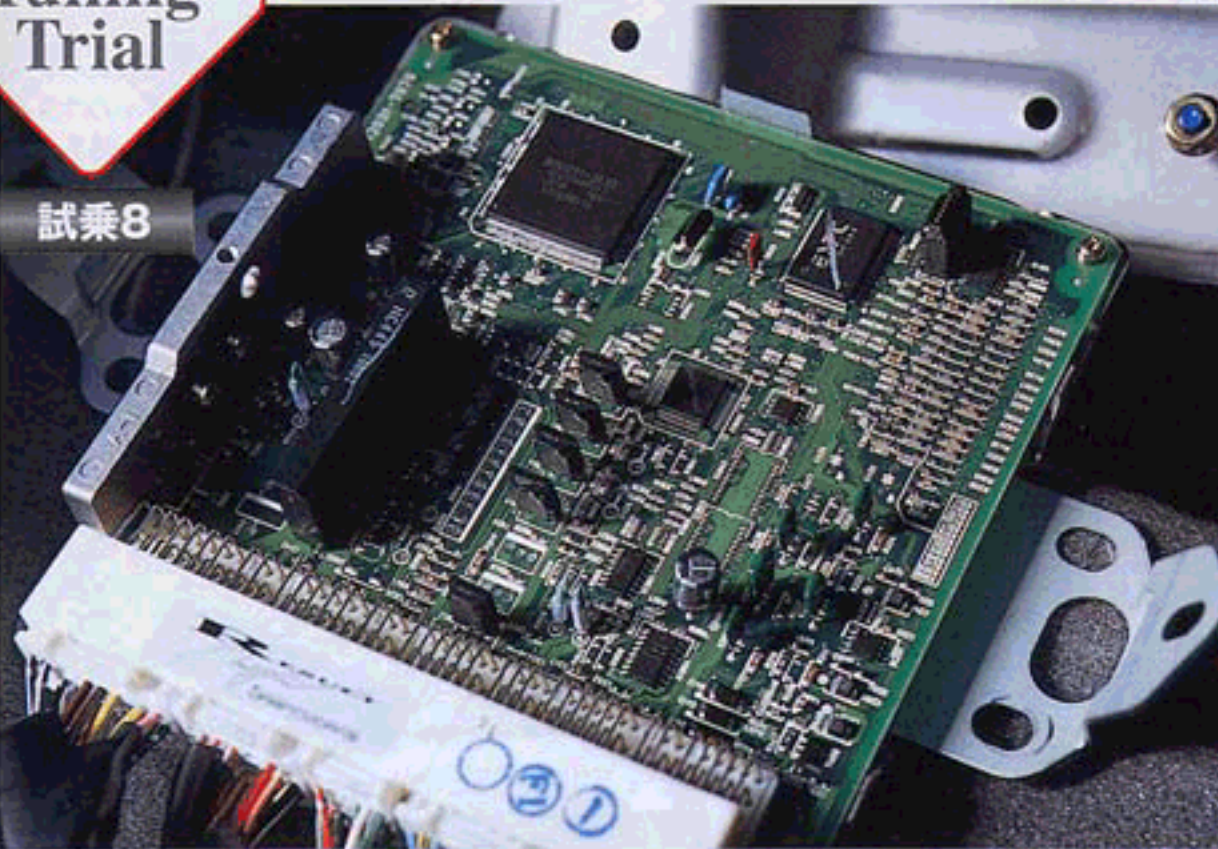
↑レポートはJGTCドライバーの田中哲也選手(左)。「9万8000円でこれだけ変わるなら買い」とのこと

←チューンドECU「リザルトマジック」のGDB型
インプレッサ用は9万8000円(ノーマル下取り
費・点火マップの書き換えとブーストアップ(1・
3kg/cm²)が施される。GDA用もリリース済み



evo.japan
Tuning
Trial

試乗8



出足から異なる加速感 NAみたいなレスポンス

試乗車はコンピュータ以外、まったくスタンダードな状態を保つインプレッサSTI。しかし、乗り出してすぐに体感できたのが低回転域でのモタツキのなさだ。

ノーマルはブーストの立ち上がりが悪く、また、それまでのNA領域は、大袈裟にいえば、何も起きないくらい回転の上がりが悪い。そして、いったんブーストがかかり出すと、急にパワーが出て加速を開始するといった、いかにも「ターボ」という感じのエンジンであるが、このコンピュータのいいところは、その問題の低回転域のトルクを増やし、レスポンスを格段に向上させているところである。

出足がいいから、ブーストのかかり方もスムーズ。「ドッカーン」の印象はまったくなくなり、ターボであることを忘れるくらい爽快な加速を味わわせてくれるのだ。

高回転に至ってもパワフルな体感は続く。ブーストも安定していて、タレないから、回す楽しさもひとしおである。全域でノーマルより明らかに力強さと、なめらかなフィールが得られて



ディアプロの
コンピュータ
だって
イジれちゃう

「ランボルギーニ・ディアプロ・イオタバージョン30thアニバーサリーモデル」世界に数台しか存在しないV12気筒車だが、オリエントワークスはこのクルマにもECUチューンを施してきた。なんといっても初めて乗るクルマ。しかし、その場でノーマルとチューンドを両方試させてもらったので、違いがあれば体感できるはずだ。ノーマルでも恐るべきパワーだが、回転によりパワーの出方に波があり、スムーズさに欠ける部分がある。そこで、コンピュータを変更してみると、ストールしにくくなって、しかも、4000rpmからのトルクが明らかにアップした。スベックは実測450psが600psにも跳ね上がったという。今度はサーキットで走ってみたい。

いるといえるだろう。
ワインディングを走ってみて、もっともわかりやすいのは、ギヤの選択を迷うようなコーナーで、常に上のギヤを選んで正解なことだ。ノーマルだと2速の高回転でいくところを3速でいけたりする。シフト操作が減ることはもちろん、立ち上がりでターボの美味しい回転を使うことができるようになり、結果、スムーズに速く走れる、燃費がよくなるなどのメリットを生み出しているのだ。現行インプレッサは6速MTになって、吹き切りが早くなったが、このコンピュータにすることで、マッチングがよくなった気がする。
コンピュータだけの変更で、そこまでの違いを体感できること自体、凄いのだが、それが9万8000円という安さにも驚き。まさに「買い」だ。
ただ、アクセルの踏み込みに対するレスポンスがあまりにもリニアになりすぎて、手を下せない戻り側のギヤアップにとまどうことになるかもしれない。「パン!!」と吹き上がるのに、回転が落ちるほうは「バアーン」と、ノーマルから変わっていないから、ブーストの戻りが悪く、エンジンブレーキも効きにくい。よって、ブレーキはシッカリ強化したほうがいだろう。